

院内感染対策に関する取り組み

1. 感染防止対策に関する基本的考え方

当院の院内感染対策は、患者さんやご家族をはじめ、病院に関わるすべての人たちを感染から守るために「標準予防策（スタンダードプリコーション）」を基本とした感染対策を遵守し、又、感染経路に応じた予防策を実施します。また、病院内外の感染症情報を収集し、院内感染の危険及び発生に迅速に対応します。感染症発生の際には拡大防止のためその原因の速やかな特定、制圧、終息を図り、感染対策上の不備や不十分な点を改善します。

2. 感染対策に関する取り組み事項

1) 院内感染対策組織に関する事項

感染対策に関する問題点を把握し、改善する院内感染対策活動の役割を担うために、病院長の諮問機関として感染防止対策委員会を設置しています。委員会は月1回を基本として必要時随時開催します。実践については、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師で構成した感染制御チーム(ICT)を設置し、院内ラウンド・抗菌薬適正使用指導や感染問題に迅速に対応しています。

2) 院内感染対策教育に関する事項

全職員を対象とした感染対策に関する研修会等を年2回以上開催しています。感染対策マニュアルを整備し、感染防止のための基本的な考え方や具体的な方法について、全職員への周知を行っています。

3) 感染症発生状況報告に関する事項

薬剤耐性菌や院内感染上問題となる微生物を検出した場合は、検査室から各部署に知らせ、注意喚起を行います。感染防止対策委員会において各種分離菌検出状況の情報共有し、感染対策の周知や指導を行います。

4) 院内感染発生時の対応に関する事項

院内感染発生が疑われる事例が発生した場合には、ICTが速やかに現状の確認、疫学的調査、感染対策の徹底を行い、感染拡大を防止します。状況は随時、病院管理者に報告されます。届出義務のある感染症患者が発生した場合は、法律に基づき行政機関に報告します。地域の医療機関や保健所と速やかに連携し対応します。

5) 抗菌薬の適正使用

抗菌薬を投与することにより患者状態の改善をはかることができても、薬剤耐性菌が発生したり抗菌薬の副作用が生じたりすることがあります。このため、当院では適切な抗菌薬を選択し、適切な量を、適切な期間、適切な投与ルートでの投与により抗菌薬の適正使用を実施しています。

6) 感染対策連携

当院では「感染対策向上加算2」を算定しており、東北労災病院と感染対策連携を取っています。